

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	技術科教育法 I				
英 訳	Method of Technology Education I				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	2 年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 1 【技術教育および技術科教育の意義と役割について理解する】 (1) 科学と技術との関連性や技術の意味を理解している。 (2) 技術教育及び技術科教育の意義と背景を理解している。 2 【中学校の技術科教師としての指導理念や心構えを確立し、技術教育および技術科教育の意義と役割について理解する】 (1) 学習指導要領の位置づけと役割を理解している。 (2) 技術教育の必要性について説明することができる。					
<b>【授業の概要】</b> 社会及び学校教育において児童生徒を取り巻く技術的環境の変化を理解し、技術教育および技術科教育の意義と役割について講義や討議を通じて理解を深める。それを基にした上で中学校学習指導要領〈技術・家庭-技術分野〉の趣旨について検討し理解する。授業前には技術に係わる情報を主体的に収集しておき、授業後に授業のまとめを毎回作成しておき、次の授業で提出する。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回：オリエンテーションー技術と技術教育ー 第 2 回：児童生徒を取り巻く環境の変化と、子どもの技術的素養 第 3 回：自然科学教育と技術教育 第 4 回：技術論と、技術教育の目的と意義 第 5 回：技術の進歩とその背景 第 6 回：技術教育の歴史的変遷 第 7 回：普通教育としての技術教育の理念、及び技術・家庭科が設置された趣旨 第 8 回：技術教育が担う役割 (1) 継続して計画的に学習を進める自律心 第 9 回：技術教育が担う役割 (2) 技術に関わる工夫・創造と、巧緻性 第 10 回：技術教育が担う役割 (3) ものづくりをとおした職業観・勤労観 第 11 回：技術教育が担う役割 (4) 生産・消費・廃棄につながる技術の活用と倫理観 第 12 回：技術教育が担う役割 (5) 技術に関わる危険・安全への理解と態度 第 13 回：技術教育が担う役割 (6) 知識・技能・理解をとおした技術の活用と評価 第 14 回：中学校における技術科教育の目的 第 15 回：中学校学習指導要領〈技術・家庭〉の趣旨と、今期のまとめ					
<b>【テキスト】</b> ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説ー技術・家庭編ー」					
<b>【参考書・参考資料等】</b> ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・その他、技術教育に関わる図書					
<b>【成績評価】</b> 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。					

**【履修要件】**

2回生前期までに配当のあった教職関連の授業の単位を取得しておくことが望ましい。

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	技術科教育法Ⅱ				
英 訳	Method of Technology Education II				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	3年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 1 【技術科教育の目標について認識し、つづいて技術分野の目標と内容を知り、個々の内容の概要及び学校の設備・機器等を把握する】 (1) 教科書などの教材や学習方法，教育技術とその評価法について理解している。 (2) 技術科における4つの内容について，これまでの専門科目で学習した内容と関連付けて理解することができる。 2 【安全管理を視野に入れた実際の授業を想定した指導方法を構想する】 (1) 実習授業の指導法について学習し，具体的な指導法を修得している。 (2) 教師と学習者への理解を深め，学校現場における技術科教育，とくに実習授業での教師の在り方を熟知している。 (3) 生徒の安全管理について熟知している。					
<b>【授業の概要】</b> 中学校学習指導要領に基づき，材料と加工，生物育成，エネルギー変換，情報の各技術における教授・学習で，技術の教師の資質に必要な具体的な知識や教育方法などを主に学習する。とくに実習指導に重点を置いた授業である。本科目Ⅱで学習した理論的内容に基づき，より実践的な内容と方法を学習することで，本科目Ⅲの内容につなげる。 なお，授業前に予め技術に係わる情報を主体的に収集しておき，授業後には授業のまとめを毎回作成して次の授業で提出する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：オリエンテーション 我が国における教育の目的とその背景 第2回：中学校技術科の教育内容とその構成 第3回：技講義および実習における学習指導法の概要 第4回：学習指導の原理と法則性 第5回：技能とその指導法 第6回：知識とその指導法 第7回：技術的思考力・創造の技法 第8回：実習の在り方 ー全習法と分習法の指導などー 第9回：教育技術 ー説話と直観ー 第10回：教育技術 ー技能の実践ー 第11回：技術の授業と教材 第12回：実習時における生徒の安全確保と指導法 第13回：教育評価と教師の成長 第14回：技術科教師のあるべき姿 第15回：技術科の授業実践法、今期のまとめ					
<b>【テキスト】</b> ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－					
<b>【参考書・参考資料等】</b> ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・「技術・家庭学習指導書－技術分野－（開隆堂出版（株）」					

**【成績評価】**

毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する

**【履修要件】**

本授業はⅢからⅣまで一連の構成であるので、技術科教育法Ⅰを受講済みであること。

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	技術科教育法Ⅲ				
英 訳	Method of Technology EducationⅢ				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	4年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2単位
【授業の到達目標及びテーマ】					
<p>1 【技術分野の多様な内容についての知識・技能を理解し、それらを活用する実践的な態度を習得する】</p> <p>(1) 技術分野の指導上の留意点について理解している。</p> <p>(2) 授業実践に必要な心構えについて理解している。</p> <p>2 【基本的に必要な指導法を修得し、それを模擬授業で実践できる力を修得する】</p> <p>(1) 技術分野の学習指導案が書くことができる。</p> <p>(2) 他人の前で目指す授業についての説明ができる。</p>					
【授業の概要】					
<p>中学校技術科が扱う内容の範囲は広く、しかも多様な内容についての知識・技能を生徒に習得させるとともに、それらを活用する実践的な態度を習得させることが求められる。そこで、生徒の学習指導に当たっての基本的に必要な指導法を修得し、それが模擬授業で実践できる力を修得する。授業の前には技術に係わる情報を主体的に収集知り介しておき、授業後には授業のまとめを毎回作成して次回の授業で提出する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：オリエンテーション－技術科教育実践のための要点－</p> <p>第2回：技術分野の内容（教材・学習材・教科書等）</p> <p>第3回：技術分野の教材・学習材の工夫（1）習得させる目的</p> <p>第4回：技術分野の教材・学習材の工夫（2）生徒の関心・意欲</p> <p>第5回：技術分野の教材・学習材の工夫（3）学習後の活用</p> <p>第6回：技術分野の教材開発とその意義</p> <p>第7回：技術分野の指導方法の要点と指導上の留意点</p> <p>第8回：技術分野の学習評価の目的と方法</p> <p>第9回：技術分野の評価の観点と評価規準</p> <p>第10回：技術分野の学習指導案の構成（1）趣旨</p> <p>第11回：技術分野の学習指導案の構成（2）展開・ワークシート</p> <p>第12回：技術分野の学習指導案の構成（3）まとめ・学習結果の活用</p> <p>第13回：技術分野の表現力の育成と活用を目指す工夫（「目標・まとめ・活用」のためのカード）</p> <p>第14回：技術分野の表現力の育成を目指した指導案と模擬授業</p> <p>第15回：技術分野の模擬授業をとおした「指導と評価」と、今期のまとめ</p>					
【テキスト】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料</li> <li>・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－」</li> </ul>					
【参考書・参考資料等】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」</li> <li>・「技術・家庭学習指導書－技術分野－（開隆堂出版(株)）」 ・その他、技術教育に関わる図書</li> </ul>					
【成績評価】					
<p>毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。</p>					

**【履修要件】**

本授業はⅢからⅣまで一連の構成であるので、技術科教育法ⅠとⅡを受講済みであること。

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	技術科教育法Ⅳ				
英 訳	Method of Technology EducationⅣ				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	4年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 1 【幅広く技術教育について考え、技術科の教員としての指導方法・指導内容について、教材研究と指導法の工夫が常に必要であることを理解する】 (1) 技術科教育の基本となる具体の課題の教材研究を学び、内容を理解する。 (2) 技術リテラシーについて課題を設定し考えることができる。 2 【指導力向上のための態度を身につける】 (1) 他者に自分が考えた指導目的や内容を説明することができる。 (2) 他者の意見に素直に耳を傾け、自らの授業内容を反省・評価し次回に活かすことができる。					
<b>【授業の概要】</b> 技術に対する基礎的指導力を修得していることを前提に、さらにその指導力の向上を図るため、技術科教育の基本となる具体の課題の教材研究、及び指導法の工夫を行って指導上の基盤を強化しつつ、指導者としての研究・研修の意義を理解する。授業前には技術に係わる情報を主体的に収集しておき、授業後には授業のまとめを毎回作成して次回の授業で提出する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：オリエンテーション－技術科教育の指導力向上を目指す教材研究と指導法の工夫－ 第2回：技術に関わる指導者に求められる資質と研修の意義 第3回：教材研究 (1) 科学技術がもたらす正と負と未来 第4回：教材研究 (2) 生活環境問題と技術 第5回：教材研究 (3) 局地的環境問題と技術 第6回：教材研究 (4) 地球環境問題と技術 第7回：教材研究 (5) 産業に関わる環境問題と技術 第8回：教材研究 (6) 資源問題と技術 第9回：教材研究 (7) 電磁波問題等と技術 第10回：教材研究 (8) 環境問題と技術の責任 第11回：指導法の工夫 (1) 技術分野の授業時間数とガイダンスの意味 第12回：指導法の工夫 (2) 材料と加工に関する技術の取り扱い方 第13回：指導法の工夫 (3) 生物育成に関する技術の取り扱い方 第14回：指導法の工夫 (4) エネルギー変換に関する技術の取り扱い方 第15回：指導法の工夫 (5) 情報に関する技術の取り扱い方と、今期のまとめ					
<b>【テキスト】</b> ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－」					
<b>【参考書・参考資料等】</b> ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・技術リテラシーに関わる図書					
<b>【成績評価】</b> 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。					

**【履修要件】**

本授業はⅢからⅣまで一連の構成であるので、技術科教育法Ⅰ，Ⅱ および Ⅲ を受講済みであること



区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	工業科教育法 I				
英 訳	Method of Industrial Education I				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	3 年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 1 【我が国の教育に関する法的背景をもとに公教育の目的や意義、歴史を理解する】 (1) 日本における公教育についての基本的知識を理解している。 (2) 日本の公教育の現行の制度や成立する社会的背景についての概略を理解している。 2 【専門教育としての工業科教育の意義、および工業科の学習指導に必要となる各科目の種類や内容を理解する】 (1) 高等学校の工業科教育の意義、今後の工業高校の役割について理解している。 (2) 工業高校教員に求められる基本的資質について習得している。					
<b>【授業の概要】</b> 高等学校工業科の学習指導に必要となる指導方法の修得を目的として、我が国における教育の目的や意義、工業科教育の目的、役割、工業科教員に求められる資質、教師としての観点などについて理解する。 授業前には日本の教育や工業に係わる情報を主体的に収集し理解しておき、授業後には授業のまとめを毎回作成して次回の授業で提出する。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回：日本国憲法および教育基本法にみる我が国の教育理念 第 2 回：学校教育法にみる我が国の教育の概要、教科書とは何か 第 3 回：“工” のもつ教育力、工業教育とは何か 第 4 回：幼稚園、小・中学校における工業教育、ものづくり教育 第 5 回：高等学校工業科の目標、内容および実態 第 6 回：社会教育（生涯教育）における工業・ものづくり実践 第 7 回：高等教育における一般・専門教育としての工業教育 第 8 回：工業系の高等学校における教育実習および教員採用 第 9 回：学習計画と授業案 第 10 回：授業の展開と学習指導 一座学一 第 11 回：授業の展開と学習指導 一実習・実験一 第 12 回：学習評価をめぐる諸問題と学校現場における教師像 第 13 回：授業の実際 一工業高校における専門教育一 第 14 回：工業科専門教育とキャリア・エデュケーション 一デュアル・システムなど一 第 15 回：工業高校の課題と今後の取り組み、まとめ					
<b>【テキスト】</b> ・「高等学校学習指導要領」 ・「高等学校学習指導要領解説－工業編－（文部科学省著 実教出版(株)）」					
<b>【参考書・参考資料等】</b> ・「日本工業教育史（小林一也著 実教出版(株)）」 ・「中学校学習指導要領」					
<b>【成績評価】</b> 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。					

**【履修要件】**

2年次までに学習した工業に関する専門科目について十分に復習し，理解しておくこと。

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	土屋 英男	授業形態	単独
授業科目名	工業科教育法Ⅱ				
英 訳	Method of Industrial EducationⅡ				
教員の免許状取得 のための必修科目	科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	3年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>					
<p>1 【日本の教育の目的を認識した上で、工業科教育の意義や工業高校の役割と特質を理解する】</p> <p>(1) 工業に係わる職業観・勤労観について理解している。</p> <p>(2) 工業科教育に必要な学習内容を把握し、指導法に活かすことができる。</p> <p>2 【工業高校教員に求められる資質や教壇での工業高校生徒への実践的指導力を形成する】</p> <p>(1) 工業科の学習指導案を適切に作成することができる。</p> <p>(2) 模擬授業等で生徒を適切に指導できる資質を習得している。</p>					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>高等学校工業科教育にとって教職科目と教科専門科目の内容にまたがる実践力形成のための授業であることから、今日の工業科教育における課題を認識し、工業科教育の具体的指導案作成や模擬授業等を行う。授業前には工業に係わる情報を主体的に収集し読み込んでおき、授業後には授業のまとめを毎回作成して次回の授業で提出する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：工業科教育の現状と指導 (1) 進路と学習</p> <p>第2回：工業科教育の現状と指導 (1) 工業科の生徒の現状と課題</p> <p>第3回：工業科教育の内容 (1) 基礎的科目</p> <p>第4回：工業科教育の内容 (2) 機械、電子、自動車科目</p> <p>第5回：工業科教育の内容 (3) 情報、建築科目</p> <p>第6回：工業科教育の内容 (4) 土木、測量科目</p> <p>第7回：工業科教育の内容 (5) 化学、材料科目</p> <p>第8回：工業科教育の内容 (6) セラミック、繊維科目</p> <p>第9回：工業科教育の内容 (7) インテリア、デザイン科目</p> <p>第10回：工業科教育の実践 ー学習指導案の作成ー</p> <p>第11回：工業科教育の実践 ー模擬授業、基礎科目を中心にー</p> <p>第12回：工業科教育の実践 ー模擬授業、選択科目を中心にー</p> <p>第13回：工業科教育の実践 ー模擬授業、発展科目を中心にー</p> <p>第14回：工業科教育における学習指導 ー評価規準と評価ー</p> <p>第15回：教員の成長とまとめ</p>					
<b>【テキスト】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高等学校学習指導要領」</li> <li>・「高等学校学習指導要領解説－工業編－（文部科学省著 実教出版(株)）」</li> </ul>					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本工業教育史（小林一也著 実教出版(株)）」</li> <li>・高等学校工業の教科書（科目や出版社は問わない）・中学校技術分野の教科書（出版社は問わない）</li> </ul>					
<b>【成績評価】</b>					
<p>毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。</p>					

**【履修要件】**

本科目と同様な復習が必要である。また、本授業はⅢからⅡまで一連の構成であるので、工業科教育法Ⅰを受講済みであること。